

## 令和5年度 湖西市防災会議 議事録

- 日 時 令和6年2月1日(木) 13時55分から15時05分まで
- 会 場 湖西市健康福祉センター 3階 研修室
- 出席者 会長及び委員 計22名のうち22名
- 傍聴者 中日新聞社、静岡新聞社
- 議 題 ・湖西市地域防災計画修正(案)  
・意見交換

(司会：危機管理課長)

皆様こんにちは。

定刻前ですけれども、皆様お揃いになりましたので始めさせていただきたいと思いません。

それではただいまから、令和5年度湖西市防災会議を開催いたします。本日は大変ご多忙の折、湖西市防災会議にご出席いただき誠にありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます危機管理課長の吉原です。よろしく願いいたします。

はじめに、湖西市防災会議会長であります、影山剛士湖西市長から挨拶申し上げます。

(市長挨拶)

改めまして、皆さんこんにちは。湖西市長の影山剛士です。

本日は、ご多忙中のところ湖西市の防災会議に各方面からご出席をいただきましてありがとうございます。また、日頃から湖西市政の様々なところでご協力ご支援をいただきまして、重ねて感謝を申し上げます。

まず初めに、お正月に発生しました能登半島の地震の被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。

そして、本日参加の皆様についてもそれぞれの立場から、被災地への支援活動、改めて感謝を申し上げます。

本市においてもお正月から消防や給水車など職員の派遣の支援を繰り返し行っており、本日も給水車が2回目の支援で朝出発しました。

また、石川県七尾市長から個別に依頼があり、水道の復旧に2ヶ月以上かかりそうということで、ペットボトルの飲料水を湖西市の備蓄から3,900本を提供させていただきました。配送についてもトラック協会の湖西地区の皆様が迅速に対応していただきまして、その日のうちに七尾市に届けることができました。

本当に日頃から、連携協定等いただいている皆様には重ねて感謝を申し上げます。

また、地震に限らず、豪雨なども最近では頻発しております。記憶に新しいのは昨年6月台風2号の時です、本市も河川が溢れたり、土砂の流出など100ヶ所以上も被害がありました。

さらに昨年9月には23年ぶりに、県と連携し大規模な総合防災訓練を実施させていただきました。

福祉避難所の浜名学園では、市内企業のプライムアースEVエネルギーにご協力をいただき、バッテリーを積んだ車から医療機器へ給電する訓練を行いました。

このような実働型の訓練を重ねることで、顔の見える関係を作り、訓練を通じて経験を積み重ねていき備えを深めていきたいと思っております。

本日の防災会議については、県の計画の修正や各種の制度改正に伴う修正の議論をいただき、その後意見交換、事例紹介をさせていただきたいと思っております。

コロナ禍が数年続きましたが、5類になって様々なイベントなど行事も市内で行えるようになりました。ぜひこのような機会に、皆様と一緒に、意見交換などを重ねていけたらと思っております。

本日も、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

以上です。

(司会：危機管理課長)

ありがとうございました。

本来でしたらここで委員の皆様をご紹介させていただくところですが、会議を迅速に進めさせていただくため、お配りした出席者一覧表に代えさせていただきます。よろしくお願いたします。

なお、事前に湖西市地域防災計画の修正の資料を送付させていただいておりますが、もしお持ちでない方がおられましたらお申し出ください。よろしいでしょうか。

それから、審議終了後の意見交換会用の資料につきましては、別途各席に配布をさせていただきます。

### **【次第3 審議事項】**

それではただいまから会議に入ります。

本会議の議長は、湖西市防災会議条例第3条の規定により、防災会議会長が当たることとなっております。

ここからの進行につきましては影山会長にお願いいたします。よろしくお願いたします。

(議長：市長)

はい。それではしばらくの間議長を務めさせていただきますので、円滑な議事進行に、ご協力をよろしくお願を申し上げます。

それでは、次第に従って進めさせていただきます。

第1号議案、まずは、湖西市の地域防災計画修正案につきましてご審議をいただきたいと思っております。まず、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

<修正案についての概要説明>

(議長：市長)

はい、ありがとうございました。それでは、審議の方に入りたいと思います。今、説明いただきました第1号議案につきましてご意見、またご質問等がありましたらお願いします。

修正の中には盛土とか所有者不明の土地とか、国、県の法規制等変わっておりますので、そういった制度改正の観点から様々ありますが、もしありましたらお願いをいたします。

特段よろしいでしょうか。

【発言なし】

(議長：市長)

よろしければ、第1号議案につきまして、ご承認につきまして、ご異議はございませんでしょうか。

「異議なし」

ありがとうございます。それでは異議なしということで第1号議案は承認いただきました。ありがとうございます。

#### 【次第4 意見交換】

(議長：市長)

審議事項については以上なんですけれども、先ほど担当の方からもありました通り、今日ですね、意見交換ということで、この防災対策事業の概要、今年度ですね、先ほどの風水害、地震もそうですけれども様々な風水害の状況と対策ですとか、また今、津波防災、防潮堤等も含めてですね、そういった議論も有識者の皆様に行っていただいております。今日も委員の皆様、自治会連合会長や浜国さん西部地域局、浜土さんはじめ、お越しいただいておりますけれども、そちらの方の防災対策事業の概要についてご説明の上、皆さんからご意見をこちらの方ですね、結構身近なところも含めてであろうかと思っておりますので、忌憚のないご意見いただければというふうに思っております。

これも事務局から説明でよろしいですかね。お願いします。

(事務局)

<湖西市防災対策事業について説明>

(進行：市長)

はい、ありがとうございました。

それでは内容に関しては、今、1番から5番までということで、それぞれ、どれかかもしれませんけれども、皆様、会社であったり団体であったりということで、お力をお貸しいただきながらですね、訓練もそうですし、津波防災の計画、今日からパブリックコメントをかけさせていただきましたけれども、こういったものの作成に携わっていただいております。感想でもご意見、また、自分ところでやっていることのご紹介、様々あるかと思しますので、何でも結構ですので意見交換の時間としたいと思います。どなたからでも結構です。よろしく願いをいたします。

どうぞ名久井所長、はい。

(委員：浜松河川国道事務所)

浜松河川国道事務所長の名久井でございます。

これ意見とかではなく、我々の取り組みとかも紹介しつつご意見させていただきたいんですけれども、まず、1月1日の能登半島の地震につきましては、国交省としても、私達の事務所もすぐに支援入りまして、まず道路の復旧なんですけど、皆さんもお気づきの通り、今回の地震の一番の特徴である、袋小路になった半島で起きたっていうところがあって、道路が、アクセスが非常に限られているという現状がありました。

南海トラフが起きたときこの辺りちょっと違う趣旨、性質の災害になったかと思えますけれども、それで我々も、今道路調査班とか現地の支援、給水車、照明車等の派遣をどんどん行っているところなんですけど、その意味でアクセスが制限された場所にいかにその復旧活動として、支援物資を運んでいくかっていうところが一番大きな課題なんだろうなというふうに思ひまして、今改めてちょっと落ち着いたところでいろんな教訓も出てくると思うので、国交省としての支援のあり方をまた検討していきたい。

南海トラフが起きたときにまず、ちょっとここの地域の話ではなくなっちゃいますけれども、伊豆半島でまず同じことが必ず起きる。隆起もしてますし、あと、大きな意味では紀伊半島も同じようなことが起きる。ですので、そこでの災害と、あとは東日本大震災でもあったように、このあたりだと海岸地域、今、津波防災地域づくりの推進計画も見せていただきましたけれど、津波でこの辺りは災害を受ける。そしてその支援のためにはくしの歯作戦とあって、例えばこちらですと高速道路から南北に道路啓開活動をしていって、海岸地域の復興支援に当たるっていう方法があると思ひまして、そのあたりを我々は今一番力を入れて、最近、静岡県さん、中心になって国県市町全員でどういうふうに啓開していくかっていうのを取り組んでいるところです。

ので、例えば、湖西市さんになってくると、そういったこの地域で復旧をしようとしたときに、自分が被災地、被災者ですからね、その中で、多分相当限られたリソースなり、マンパワーの中で、周りからは支援がどんどん入ってくるんですけども、それをいかにどうさばけるか、中間地点なりを設けたり、あとは多分避難所ってかなり散らばるので、想定してる避難所じゃないところにもどんどん、どんどん避難所ができたり、あとは避難所に行きたくなくて家にかたまる人もたくさんいらっしゃるんで、そういうところの支援をどうやっていくかっていうところが、今非常に難しい、あの各地域ごとでいうと非常に難しいように見えてますので、そういったところの取り組みがすごく重要になるのかなと、ひとつございました。

津波防災地域づくりのところも、この防潮堤というものを一応念頭に置きつつ、それまで時間がかかる、ソフト対策とかも含めて逃げるといような、命を守るという取り組みを進めていくという内容かと思えますし、それが私も現実的、どうしてもハードというのはものすごく時間もお金もかかりますので、その間にこの地域も段々土地の使い方、住まい方とかもどんどん変化していくと、どんどん人口も減少しているので、実際30年後に海岸線あたりの地域の人がどれだけ住んでいるかとか、そういった将来的な関わり方もあるので、そういった状況も踏まえつつ、想定をしつつ、まずはソフト対策で逃げるといことを、逃げる場所を確保するといことを優先して進めていくべきじゃないかなと思えます。その中でできる、防潮堤とか施設でハード系もあわせてやっていくというのが、一つの流れかなと。

あと6月の大雨の被害状況のお話もいただきましたけれども、湖西さんの中には、我々の事務所で管轄している河川とかなかったんで氾濫とか対応はなかったんですが、道路はまず国道1号をしっかり走れるように対応していただきましたけれども、湖西市で一番見てるのが浜名大橋。あそこが風がすごいですよ。あそこを風速15m以上が10秒以上続くと通行止めにし、そこをよく影山市長さんにお電話をさせていただいてるんですけども、そのあたりでの通行の状況をすぐに皆さん、地域の方にもお伝えして、地域の通行とか、物流とかに混乱がないようにという対応をしつつ、こういった大雨でいろんな被害が出た場合ですね、国としてもすぐに支援等入らせていただきますので、そこは今後も湖西市さんと十分連携をとって対応させていただきたいと、簡単ですけど以上です。

(進行：市長)

はい、ありがとうございます。本当にさっきの6月2日のもそうですし、いろんな国交省の浜松河川国道さんからは名久井所長はじめ、あと浜松土木の方にも気にかけていただいて、また西部地域全体がそれをですね、感謝していると思えますし、また今回の道路寸断、能登半島ですけども、そういったものもやはり消防も言ってきましたし、被災地の避難所の運営支援に行った職員も言ってきましたけど、被災者の中でどうさばっていくのが非常に難しいといことは、職員、実際に帰ってきてかなり言

ってましたので、そういったものもやはり現実的にというか、平時からですねどうい  
うことができるのか、この中で出てきました9月3日の防災訓練で様々なところで、  
実際の実働の訓練いただきました。今日、医師会の榛名先生もお見えですけども、  
こういった湖西病院だったり浜名病院だったり、いろんな医師会の皆さんと、また、  
この9月にやったものを先月は改めて訓練、修正したりとかでやりながら重ねていく  
ことが大事かなと思っています。

ぜひ今の津波防災の防潮堤のこともそうですけれども、引き続きこういったことは  
平時から議論していければと思っております。ありがとうございます。

では、他にいかがでしょうか。

広瀬所長。

(委員：浜松土木事務所)

ちょっと感想的なものなんですけども、先ほど名久井所長が言われた通り、能登半  
島の地震を教訓にしてね、一番大切なのはやはり情報発信、これだけ困ってるって  
いうことと、あと停電したときにどのような形で住民までそこら辺を伝えるかが大事だ  
と思います。

今日の新聞でも浜松市長がね、応援受け入れ計画を再考するというようなことがあ  
りましたので、やはり湖西市さんの方でもそこら辺をお願いしたいと思います。

それで、その中でやはり、これだけ支援を行っているからには、その行った人たち  
の経験が残るような形で行けなかった人たちにも伝わるような形でね、まずは受け入  
れてどのような需要があるかっていうのは大切だと思いますので、そこら辺は今後お  
願いしたいと思います。

特に、話に出てくるやはり避難所の水とトイレとかいろいろ出てきておりますので、  
そこら辺も、給水、応援隊が来てもそれを各地区に回す、どのような形でやるかって  
いう計画を作るとか、あとトイレもどのような形でやってみるのかっていうのが、具  
体的なところまでね、ちょっと踏み込んでやったらどうかなと思います。

それで浜松土木の方にも住宅の被害調査等を行っている者もおりますのでね、市  
の方にもいるということで、復旧のときに、そういう各県から何十人という人が来てそ  
の住宅の被害状況調査をすると、基本的にどういう形でやるかっていうのは、やはり  
市の方が主導的にやる形になりますので、今回地震で行ったところはこういう形でや  
っていたっていうのを絵にして持ってきて、こちらで伝えることは大切かなと思いま  
すので、支援状況、支援したからにはこうだ、それをどうやって受け入れたかを絵に  
していただければと思います。

そしてもう1点、やはり場所、場所によっていろいろ違うんじゃないかな、やはり  
能登半島だと、半島の過疎地で、道路がないっていうところになるとやはり道路開啓  
が大切だと。

湖西市の特徴だとやはり工場がたくさんあるということで、もし昼間、災害が発生

すると帰宅難民がものすごくたくさん出る。各工場さんは多分、BCPか何かでちゃんと水とかが全部7日分用意してるというのがあると思うんですけども、そういう問題も出てくるということで、やはり企業、先ほど市長が言われたように、企業との連携を十分やって、基本的には企業さんの方である程度やってもらうんですけども、市がフォローするとかね、逆に夜間の災害であれば、企業が空になります。そうすると、住民がそこへ逃げるようにしてもらおう協定を作るとかね。

やはり地域独特の課題があると、自分は湖西市に来ると、大きな企業がたくさんあって駐車場が広いもんで、ヘリコプター基地をいっぱい作って自衛隊をたくさん呼ぶのかなとか、そういうことも思いますので、地域の特徴とやはりどういう形で応援をたくさん入れるかっていうのを、また、地域防災計画の本編には入らないと思えますけれども、応用編みたいな形でまとめていただければ、今後のことに役立っていくのかなと思っています。以上です。

(進行：市長)

はい。ありがとうございます。大事なお話大きく分けて2点あったと思います。1点目の方はやはり、今あった通りやはり、行った職員からもかなりそういった話も聞いてまして、情報発信はもちろんですけれども、避難所運営支援に行った職員から聞いた話では、避難所を手伝って運営支援している住民の方々は、例えば行政がこうですよと、こうなってますっていう前に、もう携帯電話とかスマホでTwitterとかXを見ていて、その方がもう状況わかっているの逆で言うと、町役場の方にそれを伝達してとか住民から聞いて伝達するみたいな、そんなこともあったりしたというのは応援に行った職員からも聞きましたので、現実的にそういったものがですね、避難所運営の在り方はまた考えていけないかなというふうに思います。またもう1個、工場の話はですね、まさにおっしゃる通りで、これは自治会連合会長もいらっしゃいますので補足いただいた方がいいかもしれませんが、当然まず、従業員さんのことは備蓄等も含めてやっていただいていますし、個別にですね工場の付近、湖西市内の15の指定避難所ではないですけども、企業で体育館とか持っておられたりとか、そういった大きな工場があるところに関しては地元の自治会さんと個別に協定結ばれて、避難施設を開放していただくとか、そういったことをやっておられるもんですから、それもやはりこういったものを改善というか、また訓練を重ねながらやっていけないといけないかなと思っています。

はい、ありがとうございます。

他にどうぞ、まさに今の行政の方からもそうですし、例えば、杉森さん、地域で本当に地域防災やっていただいているので、こういった今回の観点からも感想なりそういったものもしあれば結構ですので。他の方でも結構です。

どうぞ、お願いいたします。

(委員：地域防災指導員連絡会)

指名をされてしまいましたので、私、湖西市地域防災指導員連絡会というところで、湖西市地域防災指導員、これは一般の住民の中から手を挙げて任命された方が活動しておるんですけれども、活動としては、いくつかあるんですけれども、ざっと大きく言ってしまうと、一つは先ほどもちょっとお話が出ていた、ソフト面ですね住民の皆さんに日頃から危機意識を持ってもらうっていうことで、いろいろ出前講座を通じて、災害を知ってもらう、そのために何をしなきゃいけないかを知ってもらう、それぞれ防災に対する意識を高揚してもらうという活動を一つ。

もう一つが、数年前から始めたんですけれども、今、影山市長からもお話がありました、市内 15 の避難所、指定避難所というのがあります。それぞれの避難所ごとに、避難所運営連絡会というのを立ち上げて、その 15 の避難所それぞれに集まってくる、その避難所で受け入れる地域の自治会を巻き込んでですね、いざ災害が起こったときにその指定避難所としてどういう形で避難所運営をやっていくかっていうことを事前に話し合っています。

なんでそんなことをやり始めたかっていうと、この能登半島地震でも話題になってきています、災害関連死ですね。それが熊本地震のときに直接死が 50 人に対して、災害関連死が 4 倍以上、200 人以上いた。実は、災害が起こったときに建物倒壊とか津波とか、そういった直接死に対する対策というのは今までもずっとやってきてますけれども、実は本当に災害で、亡くなる方を減らそうとしたら、その後というのがとても重要だということが言われ始めてというか、そうですね、クローズアップされてきてそこを何とかしたいということです。

避難所というやっぱり市民の皆さんに話を聞くと、それは市から誰かがやってきて運営してくれるんでしょ、自分たちがお客さんなんでしょ、とて思ってる人がほとんどなんですよね。それは、今でも出前講座で話を聞くと、大体の人はそういうふうに答えます。けどそんなことは、市の職員が災害が起こった直後、避難所に回す手なんかあるわけがない。自分たちで運営していくしかない、そこを何とか理解してもらいたい。そうは言っても、いきなり避難してきた人がすぐに避難所運営できますかっていうと、当然できるわけではなくて、来た人が少なくともこのマニュアルを見てこの通りにやっていけば、なんとなく避難所、形はなっていますよくらいのところを何とか目指そうということを考えて活動をしています。

能登半島のあの地震を見ている、やはり 200 人近い方が直接死で亡くなって、この後災害関連死で今 30 何人ぐらい、今後どんどん増えていくだろうと、熊本地震のときも、地震の後何年間も、災害関連死増え続けていました。それを減らすために、全国からいろんな支援があるようなので、そこはとても力強いなと思っていますけれども、その支援が届くまでの間に自分たちでやれることはやっていこうということがやっぱり重要だなというふうに思って今の活動を続けています。やっぱり思うのは、災害が起こるたびに、例えば関東大震災が起こってから、延焼火災に対して、火災に対



する対策がいろいろ取られるようになりました。阪神淡路大震災の後には、建物倒壊に対してとても対策が取られるようになったし、東日本のときには、津波という形で災害が起こるたびにいろんな意見があるんでしょうけれども、それなりに防災力はアップしてると思うんですね。

今回の能登半島でも、その災害関連死に対する対策っていうのが、これからかもしれないけれども、いろんな形で全国からやられているのはとても頼もしいなと思っていて、今後の南海トラフに対しても、それに期待してるだけでは駄目なんですけれども、ちょっと能登半島の方には申し訳ないんですけども、我々としては明るい面もあるのかなと思っていて、そんなようなことをちょっと感じています。すいませんなんか、支離滅裂になってしまったかもしれませんが以上です。

(進行：市長)

はい。ありがとうございます。本当に、杉森さんはじめ地域防災指導員の皆さんには、避難所運営とか、自助共助っていうことをですねいろんなところで、出前講座とかで啓発いただいて、本当にありがとうございます。

やればやるほど課題が出るっていうのはよく聞くんですけども、今回もそうですし、福祉避難所だったり、今だと要配慮者、ペット、水、トイレはもうずっと言われてますけれども、そういったものを一つ一つやっぱり地域の方々のお声だとか、行政ももちろんやりますし、手の届かないところを共に助けていただくというのが大事ななと思ってますのでぜひお力を引き続きお貸しいただければと思います。

もし他にございましたらお願いをいたします。

あとは企業の方もね、今日結構いらっしゃってますので、行政とか市民の方ももちろんですけども、何かありましたらお願いをいたします。

消防長。

(委員：湖西市消防本部)

消防本部の山本と申します。当初、消防本部は1月1日から災害派遣ということで、緊急消防援助隊を派遣しております。その部隊からですね帰ってくるたびにいろいろ話を聞きましたので、ちょっと大事だなと思うことだけお話をさせていただきます。

1月1日の20時32分に、当消防本部を出発しまして、1月2日の未明にはもう既に石川県に消防隊が入ってます。

やはり能登半島地震であるとか熊本地震のように局所的な災害につきましては、もう翌日には他県から消防とか警察とか自衛隊が入ってくると思います。

ただ、南海トラフのように広範囲に地震が発生するような場合にはですね、付近の県がですね全て被災してしまっただけで応援隊がなかなか入ってこない、それまでは何とか自分たちの市は自分たちで守らなければならないと思いますので、ここにおられる方とか、土木業の方とかそういった方全てにご協力をいただいてですね、まず道路の復

旧が非常に重要なと、とにかく、応援をしてもらうためには、緊急輸送路等が整備されないと応援隊は必ずきませんので、そこまで何とか自分たちで協力し合いながら助け合わなければならないということを感じました。

能登半島の場合には道路の寸断だけではなくて、通信網も遮断されました。能登半島の南側ですね、携帯が普通に使えてですね湖西市とも綺麗に情報交換できるような状況だったんですけども、能登半島の北側に行きましたら消防が持っているデジタル無線というのがあるんですけど、それしか使えない状況でした。とにかくですね、道路だけではなく、通信網の修復も早ければ、情報収集ができて、早く正確な情報を掴んで応援部隊が来てくれるような環境ができるのではないかなということを感じたものですから、ちょっと報告させていただきました。

以上です。

(進行：市長)

はい、ありがとうございます。消防本当に湖西市からも、今まで30名行ってまして、仮設テントでは寒くて寝れなかったぐらい正月、1日とか言ってましたんで、またこういった貴重な経験と言ってはあれですけども、能登半島に行って新たな気づきもあったと聞いてますので、またそういったものを生かしていきたいと思っております。はい。

他にいかがでしょうか。

北堀さん、西部危機管理監。

(委員：西部危機管理監)

静岡県西部地域局北堀と申します。西部地域局は、この西部地域の危機管理防災を担う機関でございまして、うちの職員からも石川の方に派遣されて、災害対策本部、各機関との調整、そういったニーズ把握ですね、行っているという状況でございます。

そういった職員からも聞きますし、私も感じたことなんですけれども、よく自助、共助、公助ということがありますけれども、やはりまずは、自分の命を自分で守るという自助ですね、これがやはり大切なのかなというふうに思っております、そういったことを静岡県としても進めている施策がございまして、私の避難計画でございます。これは、ご自宅がですね、様々な危険ハザードがどんなものがあるのか、土砂災害なのか津波の危険性があるのか浸水の危険性があるのか、そういったものをまず知っていただいてその危険が生じたときにですね、まずどこに逃げるのかという、まず自分の命を守るためどこに逃げるのかというものをですね、ご自身で記載をさせていただいて普段見るところに貼っていただくというようなところで、この取り組みは湖西市さんにおきましては市内全戸配布されているというふうに私承知しております。他の市町では、まだ全戸配布に至っていないというような状況の中で、全戸配布されているということなので、一定程度進んでいるというふうには思いますけれども、配

布して終わりではないので、まず市民の皆様にも、危険を知っていただいて、どこに逃げるのかっていうものを自ら書いていただいて、普段からですねそういった危機意識っていうのを高めていただくという取り組みがやっぱり必要なのかなと。

それがまず1点と、あと TOUKAI-0 という取り組みがあります。昭和 56 年以前の建物が、非常に地震に弱いということで、この能登半島地震でも多くの家屋被害を生じておりますけれども、耐震診断ですね、こういったものも県の方から補助出してですね、無料診断できますし、これについてはですね、浜松土木さんと湖西市さんと一緒にですね、湖西市内のそういった住宅に訪問したりもしておりますけれども、そういったところもですね、まずは自分の命を守るという点では非常に重要なことだと思いますので、そういったところもですね、我々事務所としてはですね、進めていきたいと思っておりますのでまた湖西市さんの協力をいただきながら見ていきたいと思っております。

(進行：市長)

はい、ありがとうございます。TOUKAI-0 では普段広報させていただいて、どこまで伝わってるのかなと思っておりますけど、今回はにわかに関わり合いも増えているというふうに聞いてますので、引き続き広報啓発に努めていきたいと思っております。

ありがとうございます。いかがでしょうか。

ぼちぼち一時間になりますが、よろしければ企業の方ですね、振っちゃって申し訳ないけど、中電さん、田中さん来てるので、数年前ですいません、台風 24 号のときにはもう、失礼ながら西部のどこの市町村からも大停電が起こったときに、いろんなもうすいません、危機管理の方からも首長会議でも言わせていただきましたが、だいぶアプリも含めて整備いただきまして、今回のもちろん能登に関しては管轄が違うとは思いますが、感想でも今までの整備状況でも結構ですので、企業の観点からいただければありがたいです。

(委員：中部電力パワーグリッド 浜松支社)

中部電力の田中と申します。今回まず能登半島地震についてですね、全国の電力会社として今何をしてるのかっていうことをちょっとお伝えします。あのような災害が起きると、今では、全国の電力会社が自主的にプッシュ型で応援に入るといような協定が結ばれていまして、今回も各電力会社応援に入っています。弊社の方はですね、3日に向こうに入りました。1月中までに、一応、ひと段落ついたので、かなり1ヶ月間、長い時間やっておりまして、延べの人数で弊社だけで2,000人を超える人間がですね、現地に入って現場の状況の調査、それから復旧ということで取り組まさせていただきます。

いろいろ出てきましたけど、物を直そうとか人が入ろうと思うと、まず道路がないとどうにもならないということでやっぱり、ここの道路啓開はやっぱり一番ネックになります。復旧の。湖西市さんもですねハード、ソフト、道路をしっかりと啓開でき

るような状況にするっていうのが多分、復旧にとって一番の近道かなというふうなことは感じます。

防災、復旧できる人が入って機械が入ってということなんで、復旧はかなり早くなるということでございます。

それから、先ほど言われた数年前の大規模停電に対して、ちょっと先ほど影山市長も言っていましたけど、皆さんからの問い合わせを答えるということと、現場の方を復旧するというのを両方やってですね、ちょっとかなりパンクした状況になって、情報が出せませんでしたということで、それを踏まえてですね、今はもう弊社が持っている情報は、そのままホームページなりアプリ内で自動で取れるというような形で今提供させていただいております、アプリでスマホからも見えますし、ホームページの方からもこれをクリックされれば、北陸電力さんも同じようなものがありまして、私も北陸電力から情報もらう時はアプリから、どのぐらい今止まっているんだろうとか見えますけど、弊社もそういうことで、皆さんが電話しなくても、情報が受け取れる、逆に言うとうちはその分、復旧に集中できるということですね。両方をうまく回せるような体制は取らせていただいている。私も自分のとこの会社の情報も、会社よりもそっちのアプリの方が早いし見やすいので、そんな状況です。

いかに情報を出すかっていうことと、いかに早く復旧するのか、この両輪で電力業界はですね、いろいろと災害に対して望まれる、早く復旧を望まれるインフラになりますので、一番ピンポイントでできるのが発電機車ですね。被災地みたいな、電力系統がズタズタになっても、そこまで各発電機車が行ければですね、そのエリアだけは復旧できる。それから徐々にコンクリート柱を建てて面的に復旧をしていく、こんなことをしていく。

一つだけちょっと、今日も聞いてて思ったんですけど、自助共助みたいのは非常に大切で、言葉で言うと簡単ですが、弊社の組織でも計画立てるんですけど、それを実際にやってみないとわからないところがあったりして、訓練やってるんですけど、実際に現場行ってどんなふうにセットするんですかって、図に書いたものを実際その場所へ行ってセットしようと思うと、通信の設備ってどこに付けると基地とやりとりしやすいんだろうとか、仮設のテントなんかもこのレイアウトだったら、ここに置いた方がのちのち動きやすいよね、みたいなのはやっぱり現場でないとわからないことがいっぱいあって、そういうのは訓練をしながら現場確認するということを繰り返しております。

実際に訓練といっても、動いてみることの大切さっていうかね、そういうのをすごく感じている次第で、皆様湖西市の市民の方々もですね、そこで1回やってみると結構イメージがつくかなと。

今進められているですね、ソフト面は結構大事だし、重要だと思いますんで、引き続きやっていただけるとよろしいかなと思います。

(進行：市長)

はい、ありがとうございます。2,000人規模の応援も行かれてるということで、本当にありがとうございます。また、アプリのご紹介をいただきましたけども、本当に台風24号のときはすごく、うちからも苦情を受けたことを言わせていただきましたけど、市町村からもあって、だいぶ整備されてそこを見ればということを今、広報をさせていただいておりますので、ぜひ引き続きというのと、今まさに自助共助のお話いただきましたけど、さっきご発言いただいた杉森さんとか板倉自治会連合会長とか、やっぱり地元のそういった方がたくさんやっただけで、これを繰り返すことが大事かなと思ってますので、それもぜひ一緒にですね、あの企業の皆さんもそうですし地域の方と一緒にやっていきたいと思っております。

はい。ありがとうございます。

いかがでしょう、時間も1時間過ぎてますので、もしこれっていう方がいらっしゃれば、いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、それでは様々なそれぞれ活発なご意見いただきましてありがとうございます。引き続きですね、今日の計画もそうですし、いつ何時起こるかわかりませんので、これをですね、引き続き訓練を重ねていくことで考えていきたいと思っております。

引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

では事務局にお返しさせていただきます。

ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。皆様からいただきました貴重なご意見、情報のほう今後の湖西市の防災対策に生かしてまいりたいと思っております。それから、本日ご承認をいただきました令和6年2月版の湖西市地域防災計画につきましては、静岡県知事への報告を行った上で製本をさせていただきます、皆様に配付させていただく予定であります。

それでは、以上をもちまして令和5年度湖西市防災会議を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。